



# 令和3年度 第1回 町 民 懇 談 会 =ダイジェスト=



金ヶ崎町企画財政課

去る6月14日から22日にかけて行いました「町民懇談会」の内容をお知らせします。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。(総参加者数160名(うちウェブ参加76名))

## I 開催日程

- 6月14日(月) 西部地区生涯教育センター【参加者:23名(うちウェブ参加5名)】
- 6月15日(火) 街地区生涯教育センター【参加者:21名(うちウェブ参加10名)】
- 6月17日(木) 南方地区生涯教育センター【参加者:27名(うちウェブ参加15名)】
- 6月18日(金) 北部地区生涯教育センター【参加者:36名(うちウェブ参加18名)】
- 6月21日(月) 三ヶ尻地区生涯教育センター【参加者:27名(うちウェブ参加14名)】
- 6月22日(火) 永岡地区生涯教育センター【参加者:26名(うちウェブ参加14名)】

II 時 間 各会場とも午後6時30分～

## III 報 告

- (1) 第十一次総合計画について
- (2) 避難情報の変更について
- (3) 健幸ポイント事業参加者の募集について
- (4) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種のお知らせ

## IV 意見交換

各地区から提起された地域課題について、参加者と意見交換を行いました。テーマは次のとおりです。

- 西部地区 災害時の高齢者避難について
- 北部地区 防災について、交通について(横断歩道の設置関係)
- 街地区 高齢化を乗り切る街(高齢者避難、元気な高齢者)
- 三ヶ尻地区 防災(中村地区水害想定し3自治会の協力)
- 南方地区 多面的機能支払い交付金を活用した地域内の水路、農道の保全活動について
- 永岡地区 農業振興、鳥獣被害について

## 主な意見・質問と回答

### 地区防災マップの作成について

【質問】 地区ごとの細かい防災マップがあればよいが、地形の高低差や、河川のどのあたりから水が溢れ出しやすいなど、ベースになるものがあるって作成していくのか。それとも、そういったことは地域住民が一番分かっているはずだから、地域の人たちが考えて作成してほしいということなのか。

【回答】 地区防災マップの作成につきましては、後者になります。町では、河川に大雨が降った際

の防災マップを作成し、配布していますが、それ以外の中小河川が氾濫する場合があります。小さい情報まで、町でマップに反映するのは困難ですので、過去の経験等を皆さんで共有しながら、地区防災マップを作成していただきたいと思います。

#### 財政見直しについて

【意見】 朽化する公共施設等の適正管理について、30年間の総額は459.9億円、年間平均で15.3億円とあるが、10か年計画の中で30年間を見直す必要があるのはなぜか。また、財源不足をどのようにしてカバーして、これらのインフラ整備をしていくのか。

【回答】 公共施設の更新、大規模修繕、統合等については、10年の計画ではなく、30年ぐらいの長期的視野でそれを検討しなければ、適正な見積もりができません。したがって、今後30年間の見直しに基づき、公共施設長寿命化計画を立てています。

今後、人口減少により税収が減るなど、歳入の増加が見込めない中、歳出の抑制が必要と考えています。事業の選択・集中により、事業の統廃合、縮減などの見直しは避けられないと考えています。

#### 女性団体の活動について

【意見】 婦人消防協力隊や交通安全母の会など、そのような名前の事業等があるが、男性・女性を分けたような組織や事業は見直しが必要ではないか。

【回答】 まさしく日本の社会が抱えている問題で、世界的な見地から見ると、なぜ女性・男性と分けなければならないのかという指摘ももつともなことだと思います。女性の地位向上を目指してきた部分があると考えてはおりますが、今後、女性、男性等の区別なく、政策を遂行しなければいけないと思っておりますので、今後の参考にさせていただきます。

### 各地区の意見交換

各地区において、テーマにそって意見交換を行いました。その中で出された主な発言等についてご紹介します。

#### 西部地区 【災害時の高齢者避難について】

##### ◆司会

西部地区は家が点在している地域が多く、隣家が遠い。さらに、高齢化が進み、1人世帯の高齢者が増えている。災害時、一人暮らしの高齢者が避難したかどうかは、自治体で確認しなければならないが、災害時、本当に自治体だけで対応し切れるものなのか心配がある。まず2地区の代表から発言いただき、それについて町から何か意見等があれば発言願う。

##### ◆発言者

西部地区は、6つの生活圏の中でも人口が減少している地域。散居が多く、集落のコミュニティを作るのが物理的に難しい。

長志田行政区は、集落から人が流出し、過疎化して、共同体の維持に限界がきている。長志田の現在人口が180人くらいだが、ここ50年で約半分になっている。年齢構成を見ても、

小学生は2人のみで、超高齢化という状況。地域産業の農業も、後継者がいなくて耕作放棄地が多くなると危惧している。

こうした状況で、災害が起きたときに、果たして機能できるのか。限界集落的な状況乗り越えるような形で進んでいくものも合わせて、取り込んでいく必要があるのではないかと参考となる事例等あれば、示していただきたい。

#### ◆発言者

千貫石地区は、ため池の真下に生活圏があり、大雨が降った時などの被害を心配している。はたして、自主防災組織として、大雨の時に、避難誘導を隈なく対応できるのか。堤が決壊した時は、どこに、どの経路で避難すればいいのか、自分たち自身も迷ってしまう。堤自体も、水が必要な時期が終わったら水位を下げておけばよいと思う。

#### ◆町

避難というと、その地区にいる方全員というイメージがあったかと思いますが、避難とは難を逃れるということなので、高台にいて安全が確保できる方は避難する必要はありません。同じ地区でも個々のおかれた状況に応じた安全確認が必要だと思います。

高齢者等が多くなった場合には、誰がどうやって避難所に連れていくのか、個別的な計画等も必要になると思います。保健福祉センターや生活環境課にご相談いただきながら地区で検討を進めていただければと思います。

#### ◆町

非常に難しい課題だと認識しています。常日頃から要支援者については、誰と一緒に避難するかということ、家族含めて理解していくようにしなければならないと思います。現実的には防災マップを作りながら相談していただきたいと思います。人の心理ですので、自分は大丈夫だと考える人もいるという現実を理解したうえで、どう対応するか。大変なことです。地域も、家族も、本人も、一緒になって考えていけるようにしたいと思います。

### 街地区 【高齢化を乗り切る】

#### ◆司会

街地区は高齢化率が50%を超えるような地域も出てきている。今後、高齢化がさらに進んだ場合、老老介護、一人暮らし、認知症、災害時の対応、空き家対策、農地の保全、自治会等の役員のなり手の問題など、多くの課題が出てくる。一方、行政では少子高齢化に伴って、財源不足が生じている。そういった中で、この街地区をいかに持続可能なかたちにしていくか、お話いただきたい。

#### ◆発言者

行政から依頼されている各種の委員がある。その種類や数は20年間ほとんど変わらずに来ており、その必要性について、見直しが必要ではないか。また、委員の中には年齢制限があるものもある。高齢化で70歳くらいまで仕事しており、委員の成り手は、70歳代後半、80歳代という人をお願いせざるをえない状況になっている。

#### ◆発言者

なんでも行政サービスに頼るのではなく、自分たちの地域を見直しながら、できることは自分たちでやるというように切り換えなければならない。除雪にしても、行政に頼まなければならないのもあるが、自分たちでできる雪かきもある。自治会の中で、地域の人たちを守りながら住みやすい環境を作ることが、地域に住む私たちの責務だと思う。

檀原では、今般の大雪で、すぐ除雪隊を構成した。要領等はないが、集まれる人は来てくださいということで、集まった人で高齢者宅等の除雪対応を行った。そういった輪を広げ、1つ1つやれることをやっていくことが、地域の高齢者を守っていくことになると思う。

#### **南方地区** 【地域内の水路、農道の保全活動について】

##### ◆発言者

多面的機能支払交付金を活用して、水路等の保全活動が行われているが、同じ行政区でも都市計画区域の関係から活用できない。可能な限り活用できるようにできないか。

##### ◆町

当初、多面的機能支払交付金は農業振興地域内でしか活用できないということで始まっておりました。その後、都市計画の用途地域内でも対象にできる内容も出てきています。制度においては、農業振興地域と用途地域との違いがありますが、この場所を対象にして欲しいということがあれば、再度、協議をさせていただければと思います。

#### **北部地区** 【防災について、交通について】

##### ◆発言者

北部地区では、第一小学校の体育館が二次避難所になっているが、学校側と協議して、具体的に避難所としてどう開設するか、十分に徹底されていないように感じる。第一小学校の場合、体育館側にトイレがない。災害時に備え、細かい部分を決めていく必要があると思う。

##### ◆町

今年も避難所運営訓練や防災訓練を実施していきますので、こういった場所が必要で、この鍵を、誰に開けてもらうといったような具体的な内容も詰めていきたいと思います。

##### ◆発言者

防災無線の意図は、緊急事態を知らせるということだと思うが、今の防災無線は非常に聞きづらいという環境下にある。一方、普段鳴っている時刻を知らせる音がうるさいという住民の意見もある。放送内容に応じて音量を調整できないものか。

##### ◆町

家の近くに防災無線がある方にとっては、音量が大きいかもしれませんが、聞こえない方もいますので、どうしても最大の音量のほうがよいということで放送しております。定時放送は機器の点検のため必要です。定時放送だけであれば音量調整は可能ですが、緊急地震速報等があった場合、自動で防災無線が起動しますので、その際に音量が低いと聞こえない場合もあります。やはり、万が一のために一定程度の音量は必要と考えています。

## **三ヶ尻地区** 【防災（中村地区水害想定し3自治会の協力）】

### ◆発言者

中村自治会としては、災害時要救護者を台帳化しようという話があり、昨年、情報収集と台帳化を実施した。ただし、個人情報の関係もあり、この内容について自治会長だけ把握して、他の人には知らせないということになっている。

一方、町でも災害時避難行動要支援者台帳があるが、警戒レベル3にならないと開封できないものとされている。この前も金ヶ崎町で災害レベル4が発令されたが、避難指示が出たわけではなく、いつ開けていいのかわからない。また中村地区の同じ班でも高いところに住んでいる人と低いところに住んでいる人がおり、それらに係る台帳についても自治会長の判断で開封してよいものなのか。

### ◆町

災害が目前に迫っている状況でない限り、本人の同意が得られない中で情報を公表することは、個人情報保護の観点で困難です。本人の同意ができていれば、自治会の範囲で、要支援者リストを作るのは問題ありません。要支援者の把握等については、ぜひ地区でも話し合っていたら、その地区の状況に応じたリストや防災マップの作成をお願いします。町だけでは対応が難しく、地域の方々との連携が必要ですので、地域で災害時に支援が必要な方を把握していただき、避難所へ連れて行っていただきたいと考えております。

## **永岡地区** 【農業振興・鳥獣被害対策について】

### ◆発言者

金ヶ崎町ではスマート農業はどのような取組みがあるのか。

### ◆町

町の取組みとしては、ドローンの操作資格に対する支援のほか、トラクター等の自動操縦については、基盤整備を行った地区でモデル的に実証を始めたいということで、県と一緒に進めているところです。

### ◆発言者

イノシシの被害が出てきているが、どのように対処したらいいかわからない。

### ◆町

一昨年あたりからイノシシの出没がかなり増えてきています。猟友会と連携して状況把握と罠の設置による対応を進めているところです。

地域によっては、地域全体で被害を軽減するため、計画を立て、補助を受けて電気牧柵を設置しているところもありますので、担当課とご相談いただきながら、対応方法を考えていきたいと思っております。

※質問・回答・意見については、要約して記載しておりますのでご了承願います。

**お問い合わせ／企画財政課 政策係 ☎0197-42-2111(内線 2325)**